

生まれかわった霞ヶ関

～明治政府の夢だった官庁集中計画は関東大震災後どう実現したのか～

震災後に建設された霞ヶ関官庁街



警視庁庁舎



内務省庁舎



会計検査院庁舎



文部省庁舎

出典：『霞ヶ関100年 中央官衙の形成』

2023年 **11月15日** (水)

19時～20時30分 (18時30分 開場)

会場 日比谷図書文化館

地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

定員 200名 (事前申込順、定員に達し次第締切)

参加費 1,000円

■ 官庁、なぜ霞ヶ関に集中したのか？

明治政府の大きな課題のひとつが、幕末に結ばれた不平等条約の改正であり、壮麗な中央官庁街の建設は日本を一流国と印象づけるための試みでした。しかし挫折を重ね、その夢は実現しませんでした。

大正に入り、東京の姿を変えた関東大震災は、官庁施設にも莫大な損害を与え、結果として分散していた中央官庁は霞ヶ関に集中することになりました。

■ 現代につながる中央官庁街建設の歴史

『霞ヶ関歴史散歩』の著者でもある講師をお迎えし、明治期を振り返りながら、現代につながる中央官庁街の建設の歴史をたどります。

講師 **みやた あきら** **宮田 章** (元建設省 大臣官房審議官)

1942年、東京生まれ、1965年建設省入省後、大臣官房審議官で退職、公共建築協会専務理事を経て、2008年に「NPO法人建築から社会に貢献する会」を設立、技術者の教育や一般の人々に建築知識等の普及の活動に努めている。
著者に『霞ヶ関歴史散歩』(中央公論新社)、『霞ヶ関100年 中央官衙の形成』(共著、公共建築協会)、『角倉了以の世界』(大成出版社)。



お申し込み

- ①ホームページのお申し込みフォーム
 - ②お電話(03-3502-3340)
 - ③ご来館(1階受付)
- いずれかにて、①講座名、②お名前(よみがな)、③電話番号、(「お申し込みフォーム」からの場合は④メールアドレス)をご連絡ください。

小学生以下のお子様に参加される場合、保護者の同伴が必要です。(同伴者の方にも参加費が必要です。)



アクセス

都営地下鉄●三田線「内幸町駅」A7出口／徒歩3分

東京メトロ●丸ノ内線●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口／徒歩3分

東京メトロ●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口／徒歩3分

JR「新橋駅」日比谷口(SL広場)／徒歩10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

